

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

## 学校名【 広島県立広島中央特別支援学校】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	小学部（14名） 中学部（10名） 高等部（8名）計32名 参観保護者（2名）
3 展開の形式	（ ○ ）教科で実施 教科名（ 体育, 保健体育 ） （ ）教科以外で実施 （ ）
4 目標（ねらい）	・児童生徒のスポーツに対する学びを深める。
5 取組内容	・各種スポーツの知識、経験が少ない児童生徒のため、授業で取り入れている器械体操を選択し、伝えやすい種目等を周知していった。事後学習では、「活動してどうだったか、どんなことが学習できたか、スポーツ競技ではどんなものに興味を持ち、次回学校に招聘してほしい選手氏名、競技名は何か」を生徒から聞き取った。
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部では音楽のテンポが速すぎて正確に行うことは難しい活動もあったが、リズムに合わせた講師の掛け声での指導により楽しく活動できた。また、事後の体育の授業で、講師から学んだ活動内容を児童が自ら取り入れて準備体操をするようになった。</li> <li>・中学部では、楽しく体を動かすことを学び、マット運動では、講師の試技を見ることで、手足の伸び等、細部も意識することができ、自分が経験した技を分析し自分の動きと比較することができた。</li> <li>・高等部では、マット運動を授業に取り入れ、発表会では講師が披露した技のポイントとなる動きを理解することができ、自分で感じ取ったことを練習に生かすことができるとともに、技術の向上が見られた。</li> <li>・理療科生徒が講師の筋肉を触ることで、アスリートの筋の特徴を体感させていただく貴重な時間を設けることもできた。</li> <li>・体操競技以外のトップアスリートの要望が生徒からあり、トップ選手と接することの意識が拡大した。</li> <li>・講師の指導は、教師が学ぶものが多く、実践の参考となる活動であり、今後の教科指導に生かしていきたい。</li> </ul>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	・講師のプロフィールを掲示し、オリンピックに出場した選手であることを周知した。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間（50分）の実践は少し短かった。</li> <li>・2時間分の実践時間が必要。</li> <li>・視覚障害のある児童生徒のため、指導内容によっては、困難な状況もあり、児童生徒の状況に応じた活動となるよう、事前打ち合わせが必要であった。</li> </ul>
9 来年度以降の実践予定	・オリンピック・パラリンピックに関する、実践形式の実技指導が計画された場合、積極的に応募、参加をしていきたい。

	<ul style="list-style-type: none"><li>・スポーツ各種競技の特性について、授業において周知及び実施していく。</li></ul>
--	--